

福祉サービス第三者評価結果報告書【平成31年度(2019年度)】

2020年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 101-0041  
所在地 東京都千代田区神田須田町1-9  
相鉄神田須田町ビル203

評価機関名 株式会社 福祉規格総合研究所

認証評価機関番号 機構 03 - 109  
電話番号 03-3258-0348  
代表者氏名 代表取締役 林 俊 哉



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	伊東 理	経営	H1202003
	②	石田 佐穂子	福祉	H0702012
	③	戸出 久代	福祉	H0601059
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	養護老人ホーム			
評価対象事業所名称	美山苑			
事業所連絡先	〒	192-0152		
	所在地	東京都八王子市美山町1463番地		
	Tel	042-651-3616		
事業所代表者氏名	施設長 戸 邊 清 子			
契約日	2019年 5月 16日			
利用者調査票配付日(実施日)	2019年 8月 6日			
利用者調査結果報告日	2019年 9月 20日			
自己評価の調査票配付日	2019年 8月 1日			
自己評価結果報告日	2019年 9月 20日			
訪問調査日	2019年 9月 30日			
評価合議日	2019年 11月 19日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査では、調査日を2日設け延べ9名の調査員により、自筆によるアンケート回答か調査員による聞き取り回答かご本人の希望に沿って実施した。聞き取りの時間は午前か午後か希望の時間帯を選択してもらい、アンケート回答でも午前、午後の記入時間を設けて選択しやすいように配慮した。 訪問調査は、高齢者施設での現場経験者を中心に評価者3名で実施した。施設へ実際におじゃまして行う調査では、入居者の日常生活を最優先とした。そのなかで、職員の通常業務の支障とならないような時間配分や事務負担に配慮して調査を実施した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2019年 12月 26日

事業者代表者氏名 施設長 戸 邊 清 子



No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	入居者の主体性を重視し、共に問題を考えながら生活の向上に取り組んでいる
	内容	入居者が主体性を持って心豊かに生活できる施設を目指すことを掲げ、毎月の荘内および全体懇談会では苑内の諸問題について入居者と職員と一緒に考え、円滑な共同生活・人間関係作りができるように支援している。また、施設がバックアップ体制を取る中で、生活委員会・食事委員会といった委員会活動や老人会、苑内ボランティア活動など、様々な場面で入居者が主体となり、生活の向上に取り組んでいる。個々の価値観や生活習慣、またプライバシーを十分に尊重しながらも、共同生活を大切にした支援に努めている。
2	タイトル	自主的な老人会活動が継続し、地域の一員として地域活動にも参加している
	内容	入居者主体の老人会「つつじ会」は社会奉仕、健康増進、生き甲斐活動等の、会員による会員のための独自の活動を行っている。施設内ではボランティア活動、食事中のBGM等の生活に関する入居者アンケート施行、図書管理などを自主的に担っている。さらに、地域清掃・町会行事への参加、小学校との訪問交流、街頭募金活動への協力等、地域の一員として施設外でも活動している。つつじ会が主となり展開する同好会活動は、入居者の個性や特技を活かせる機会になっている。職員は入居者の自主性を尊重して、フォローが必要な場合に支援している。
3	タイトル	入居者の生きがいにつながるような、多彩なクラブ・同好会・ボランティア活動がある
	内容	入居者の生きがいとなるように、多彩なクラブ・同好会・ボランティア活動がある。クラブ活動はグラウンドゴルフ・レクリエーション・園芸等の身体を動かす活動や、カラオケ・書道・詩吟・手芸・朗読の会がある。同好会はクラブ活動とは別に、入居者が自主的に行っている。個人で家庭菜園、草花や猫の世話、作品製作等に取り組む人もいる。ボランティア活動は屋内外の掃除、新聞回収、朝の体操準備等を行っている。苑内外のゴミ回収作業は、元気で働きたい入居者が有償ボランティアで担当している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職種間の連携を密にする必要があると感じており、夕礼をチームワークの重要性を説く場としていきたい
	内容	養護老人ホームでの経験が豊富な職員が多く、また個々の支援スキルも高い。単独での業務が多いため他の職員や職種と連携・協働して支援する場面は多くない。しかし近年、入居者の状態や行動・ニーズが多様化・複雑化してきており、職種を超えた連携や協働が不可欠となるケースが増えてきた。現在、そうした職種間の連携がやや不足していると感じており、必要な情報を効率よく収集したり発信したりする仕組みの見直しが必要であると認識している。現在行っている夕礼を、あらゆる職種がみんなで仕事をしているのだと総合的に見える場としていきたい。
2	タイトル	より確実な個別支援計画策定のシステム・サイクル改善への取り組み
	内容	アセスメント後に入居者・生活相談員・支援員の三者が話し合い、入居者の希望や意向を受容することを重視しながら入居者全員に対して原則として年に1回、個別支援計画「私の生活プラン」を作成している。入居者の状況変化時には、会議や朝礼などにおいて支援内容の見直しを検討し、朝礼後には1名の入居者の個別支援計画を取り上げて現状の計画内容について検証を実施している。個別支援計画作成のしくみやサイクルについては今後改善を進めていく必要性を認識しており、より確実な計画策定のシステム作りへの取り組みが期待される。
3	タイトル	口腔ケアプロジェクトの体制を整えて取り組む
	内容	口腔ケアプロジェクトを日常業務に組み込み、体制を整えて取り組もうと動き出している。現在、歯磨き介助が必要な人は3名程度で、ほとんどの人は自分で行うが十分とは言えない。入居者の意識の向上が必要で、懇談会やポスターの掲示で口腔ケアの必要性、歯磨き方法を伝えようとしている。夕食後に職員が茶を配りながら歯磨きの声かけをしている。通所介護利用者には身支度を含めて声をかけて確認し、事業所と協力して夕食後の歯磨きを行っている。週1回歯科医師が来苑し、治療や相談に応じている。

福祉サービス第三者評価結果報告書【平成31年度(2019年度)】

2019年 12月 24日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 192-0046

所在地 東京都八王子市明神町2-20-8アーバンライフ501

評価機関名 特定非営利活動法人にここ福祉の会

認証評価機関番号

機構 09 - 195

電話番号 090-8777-5236

代表者氏名 高橋忠夫



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	小林与志雄	経営	H1501047
	②	落合裕子	福祉	H1001087
	③	染田興宣	福祉	H0305085
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	指定介護老人福祉施設【特別養護老人ホーム】			
評価対象事業所名称	みやま大樹の苑		指定番号	1372900389
事業所連絡先	〒	192-0152		
	所在地	東京都八王子市美山町1463番地		
	TEL	042-651-0161		
事業所代表者氏名	小野原昌子			
契約日	2019年 6月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2019年 10月 8日			
利用者調査結果報告日	2019年 10月 25日			
自己評価の調査票配付日	2019年 7月 30日			
自己評価結果報告日	2019年 10月 25日			
訪問調査日	2019年 10月 28日			
評価合議日	2019年 11月 25日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は聞き取り方式で、利用者がくつろいでいる場所で、質問内容を利用者が理解できるよう丁寧に説明して実施した。利用者家族に対しても利用者と同じ質問項目によるアンケート調査をした。訪問調査に際し、利用者調査結果、家族アンケート結果、職員分析シート結果と事業所からの提出された資料をもとに事前に評価者が協議をした。当日は利用者の食事場面を見学し、また、経営層、相談員、看護師、介護責任者、管理栄養士から運営やサービスの内容を聞き、書類等で確認した。それらを踏まえて合議によって評価し、報告書にまとめた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2019年 12月 24日

事業者代表者氏名 小野原昌子



No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員の学ぶ機会が多く、また職員同士が認め合うなど働きやすい職場環境になっている
	内容	職員の職務分掌や役割が整備され、職員が一体となって業務を遂行している。業務の決定には、各部門の意見を採り上げて決定につなげるボトムアップ方式をとり、職員の参加意識が高くなっている。また、研修体制が整備され、専門職員としての学ぶ機会が多い。さらに、職員表彰制度があり、職員同士が認め合い、質を高め合う職場環境づくりを目指している。その取り組みの一つとして、朝礼時に「職員の行動等を褒める」ことが実施されている。お互いに認め合うこと、それを言葉にすることで、一人ひとりのやりがいにつながる職場環境になっている。
2	タイトル	職員一人ひとりが日々の支援の中で問題意識を持ち、入所者の視点で、「より良い介護」を実践している
	内容	施設全体でお互いが専門職として尊重し合い、利用者本意での連携が安定している。職員一人ひとりが日々の支援の中で問題意識をもつことと、入居者の視点での「より良い介護」を実践することを意識して支援をおこなっている。コンプライアンスについて学習会をおこない、小さなことでも疑問に思う事は声を上げるよう取り組んでいる。また不適切なケアに対するアンテナを高くし、気づきを大事にして取り組んでいる。高齢者の権利擁護・虐待防止の研修に力を入れており、施設内研修のほか外部研修にも積極的に参加し、より良い介護を実践している。
3	タイトル	個人の尊厳と安楽を保ち、看取り介護と身体拘束をしない支援に取り組んでいる
	内容	終末期まで人としての尊厳と安楽を保ち、看取り介護を実施し、身体拘束をしない取り組みを実施している。看取り介護指針に基づき、その人らしい生活を尊重したきめ細な支援を、多職種が連携をとって安らかに過ごせる体制を整備している。看護師は夜間オンコール体制をとり、必要に応じて医師への連絡体制をつくっている。経腸栄養で病院ではミトン使用の方の入居の際には、家族の希望と施設の身体拘束ゼロの方針のもとにミトンを外した。身体拘束ゼロへの施設全体での取り組みは高く評価できる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	施設への入居を待っている方のために、さらなる利用率の向上などへの取り組みに期待したい
	内容	高齢者の増加に伴い、施設への入居を希望する人が多くなる。また施設の利用者の中に最後まで施設で過ごしたいとする利用者が増えることが予測される。施設は社会的な使命を果たすため、利用率の向上や看取り介護に取り組んでいる。前年度は、入院者が多いことなどから利用率が目標数値に達成していなかった。利用率を阻害する入院や感染症などの要因を十分検討して利用率向上へのさらなる取り組みに期待したい。また、看取り介護の人数が増加した際でも、看取り介護を継続するための体制作りが今後の課題である。
2	タイトル	特別養護老人ホームとしての社会資源の積極的な活用が望まれる
	内容	社会福祉法人に求められる役割として、社会貢献の取り組みが重要視されており、地域の拠点として、特別養護老人ホームの機能を地域住民へ発信し必要とされる施設づくりが期待されている。介護予防教室への継続的な参加協力のほかに、具体的に、地域のニーズに応えるべく、特別養護老人ホームの社会資源として、健康相談、健康体操、介護技術などの講座を施設ができることの、さらなる取り組みの計画と実践が望まれる。
3	タイトル	重度化が進む中で、課題とされる重度者にあつた機能訓練が提供できるよう、様々な検討がされることに期待したい
	内容	個別機能訓練は、理学療法士やマッサージ師などの専門職が関わって計画書を作成している。リハビリ専任職員が作成することで、介護の視点も大切にしている。生活リハビリについては計画にすることで、より生活の中で実施できるよう意識している。利用者の重度化が進んでいる中で、訓練内容の見直しを課題としている。訓練頻度について、重度者のマッサージ、可動域訓練などリハビリのうち、居室で行うものについては、十分に対応しきれていない面がある。重度者にあつたリハビリがさらに提供できるよう、様々な検討がされることに期待したい。

福祉サービス第三者評価結果報告書【平成31年度(2019年度)】

2020年 3月 3日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 140-0001

所在地 東京都品川区北品川4-7-35御殿山トラストタワー9階

評価機関名 株式会社 医療福祉経営研究所

認証評価機関番号

機構 07 - 180

電話番号 03-5422-7938

代表者氏名 薄井 照人



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	新井 結花	福祉	H0802032
	②	新藤 建	経営	H0304018
	③	佐野 真奈美	福祉	H1202015
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	救護施設			
評価対象事業所名称	優仁ホーム			
事業所連絡先	〒	192-0152		
	所在地	東京都八王子市美山町1463番地		
	Tel	042-651-3438		
事業所代表者氏名	富澤達也			
契約日	2019年 7月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2019年 8月 15日			
利用者調査結果報告日	2019年 10月 7日			
自己評価の調査票配付日	2019年 7月 30日			
自己評価結果報告日	2019年 10月 7日			
訪問調査日	2019年 10月 15日			
評価合議日	2019年 10月 15日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・標準手法である利用者ご本人に対する聞き取り調査の対象者が全体の8割でした。聞き取り調査の当日に、施設内の様子を拝見しました。 ・職員の自己評価では、オリジナルの回答シートを用意し、階層別の評点分布だけでなく、より問題点を特定しやすいように集計結果をまとめて、事業所に報告しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

救護施設 優仁ホーム

施設長 富澤達也



No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	「一人ひとりが主人公」であることを念頭に、利用者が主体となって施設運営や生活について意見や提案ができる機会を設けています
	内容	施設では「一人ひとりが主人公」であることを念頭に、利用者が主体となって生活について意見や提案ができる機会を設けています。各棟から代表者を選出して生活上の課題を話し合う「利用者代表委員会」、棟ごとに意見を出し合う「各棟定例会」、司会進行を利用者代表委員が担って全体で行う「合同定例会」などを毎月開催しています。さらに、行事の際には実行委員を利用者から募集して行事開催に携わってもらい、また掲げた目標に対するプロジェクトの立ち上げにはメンバーとして入ってもらうなど、利用者主体の施設となるよう取り組んでいます。
2	タイトル	地域の一人として関わることができること、地域移行に向けて利用者の支援者が地域内に広がることも期待できる取り組みが行われています
	内容	毎日の日課である朝の散歩は、利用者自らが、地域の方々とあいさつを交わす良い機会です。また、地域内の美化活動として「クリーンウォーキング」、外部就労としてお寺の清掃、劇団社屋の清掃なども定着しており、町会で行われる行事にも積極的に参加し、施設で行う行事にもたくさんの地域の方々の来訪があり、利用者は交流する機会を多く持つことができています。ここで暮らしているからこそ地域住民の一人として関わることができること、地域移行に向けて利用者の支援者が地域内に広がることも期待できる取り組みは継続して行われています。
3	タイトル	組織として、職員として施設の活性化に向けた取り組みを一丸となって推進しています
	内容	施設内で取り組んだ大小様々な改善事例を確認し合うことを続けてきたことで、職員の意識向上が図られています。職員全体で改善事例の振り返りを行い、検証を行う、この繰り返しは組織全体で一つのことに向き合うことにより、「施設として何を大切にしているのか」ということに対する共通理解を深めることにつながっていると推察されます。また、施設では職員の施設内で実現したいことを推進するためにチャレンジアンケートに取り組んでおり、組織として、職員として施設の活性化に向けた取り組みを一丸となって推進しています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	「リスクマネジメント」という視点でヒヤリハットを活用できるよう見直しを図ることも期待されます
	内容	施設内の全管理への取り組みは、事故予防の観点で部屋の環境整備、マットやセンサーの導入など、利用者における事故の減少に向けて取り組んでいます。施設内で起きた事故についてもタイムリーに事故報告書をあげて対策を講じています。その一方でヒヤリハットに対する取り組みについては、まだ改善の余地があると推察されます。ヒヤリハットは利用者の事故を防ぐという視点だけではなく、「リスクマネジメント」という視点で、利用者の安全管理のほか、情報管理などについてもヒヤリハットを活用できるよう見直しを図ることも期待されます。
2	タイトル	職員の「報告・連絡・相談」に対する意識向上を図るためにも事業計画等に落とし込み、取り組むことが期待されます
	内容	職員の支援体制は、これまでの男性棟・女性棟担当からワンフロア制に変更しました。これらの取り組みは、利用者のみならず、職員同士のコミュニケーションの活性化にもつながると推察されます。その中で、職員間の「報告・連絡・相談」はまだ十分に確立できておらず、施設全体の課題と捉えており、昨年度の事業報告書内でも明記しています。しかしながら今年度の課題として事業計画への反映はなされていない現状があります。職員の「報告・連絡・相談」に対する意識向上を図るためにも事業計画等に盛り込み、職員全体で取り組むことが期待されます。
3	タイトル	マニュアルの多さを課題として捉えているため、意見を出し合いながら、マニュアルを精査し今後の直しを図っていくことも期待されます
	内容	利用者の個別マニュアルは項目ごとに丁寧に作成しており、職員間で統一した支援に向けて活用しています。施設で作成しているマニュアル類は、1冊にまとめ各棟のスタッフルームに保管するほか、パソコン内にフォルダを作成して保存しており、いつでも確認できる状態にあります。その一方で、詳細に写真やイラストを用いて分かりやすく作成している分、マニュアルの多さを課題として施設では捉えています。業務マニュアル・改善委員会や各フロアからも意見を出し合いながら、マニュアルを精査して今後の見直しを図っていくことも期待されます。

福祉サービス第三者評価結果報告書【平成31年度(2019年度)】

2020年3月24日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 104-0061

所在地 東京都中央区銀座6-6-1銀座風月堂ビル5F

評価機関名 合同会社福祉経営情報サービス

認証評価機関番号

機構 07 - 172

電話番号 03-5537-7750

代表者氏名 渡邊廣貴



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	河原優佳里	福祉	H1501012
	②	渡邊広貴	経営	H0403033
	③	高谷史朗	福祉	H1201010
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	アゼリヤ保育園			
事業所連絡先	〒	135-0042		
	所在地	東京都江東区木場1丁目3番5号		
	TEL	03-3645-0484		
事業所代表者氏名	小川良子			
契約日	2019年 10月 17日			
利用者調査票配付日(実施日)	2019年 10月 17日			
利用者調査結果報告日	2019年 12月 26日			
自己評価の調査票配付日	2019年 10月 17日			
自己評価結果報告日	2019年 12月 26日			
訪問調査日	2020年 1月 17日			
評価合議日	2020年 2月 11日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査(アンケート): ・配布は事業所に協力をして頂いた。 事業評価: ・経営層自己評価の中で課題として認識している項目については、その課題に対する対応状況等を聞き取り現状の把握に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2020年3月16日

事業者代表者氏名

園長 小川良子



No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	毎年さまざまなことに取り組み、保育環境や保育の内容、行事など、園の保育の充実化が図られている
	内容	毎年保育のテーマを決めて保育のマンネリ化を防ぎ、新しいことを行ったり、同じことでも変化を持たせるなどの工夫がされている。毎朝実施しているラジオ体操は数年前にその時の保育テーマから開始したことであり、現在も継続されているなど、毎年テーマに沿って保育内容を考えることが保育内容を充実化させる原動力にもなっている。また、子どもの「主体性」をテーマとして保育環境の向上に取り組んでいる。勉強会を重ね、玩具の設定などの工夫や、子どもの意見を行事に取り入れることなどとして日々園の保育を進化させている。
2	タイトル	子ども個々に保育目標を設定し、記録、連絡、報告を丁寧に行なって保護者との高い信頼関係を構築している
	内容	連絡帳は5歳児まで継続することで子どもの園で様子、家庭での様子を保護者と共有しており、子どもの状況は個別日誌に全クラス個別欄を設けて記録している。また、子ども個々の個人目標を0歳児から5歳児まで全員に設定している。目標は生活習慣の獲得なども含め、少し背中を押すことで達成できるような内容で設定しており、保護者には連絡帳や面談で伝えて子どもの育ちを家庭と共有している。報告、記録、計画、情報共有を丁寧に行っており、今回の利用者調査では保護者からの信頼も非常に高い等、保護者との信頼関係を構築している。
3	タイトル	毎年保育テーマを設定し、保育環境の向上や保育内容の充実に園全体が一体となって取り組んでいる
	内容	毎年の保育テーマ設定や実施している保育環境プロジェクトなど、職員間や各クラスで話し合い、保育の幅を広げ、内容の充実化や質の向上につながる取り組みが推進されている。職員のアイデアや提案をみんなで意見を出し合い、企画から実施事項までを決定していることが、保育内容や環境を掘り下げて考える機会になるとともにチームワークの向上に寄与している。保育テーマについては各クラスや給食、フリー保育士までその年度のクラス運営などの計画に取り入れ事業計画に記載して実行されており、園全体が一体となって取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園の特徴や取り組みなどを上手に伝える情報発信を期待したい
	内容	保護者への情報提供は掲示や園だよりのほか、日々の会話や5歳児までの連絡帳などで丁寧に行われている。広く地域に向けた情報提供のための媒体としてはホームページやパンフレットがあるが、この2点については調査時点でリニューアルを検討し、進めているところであった。改定の際にはぜひ、園で実施しているさまざまな取り組みや特徴、子どもの姿などが情報の受け手に伝わる内容として、広く情報発信をしてゆくことを期待したい。
2	タイトル	大規模災害などに備え、安全の確保に引き続き万全を期していただきたい
	内容	園としてBCP(事業継続計画)を策定しており、災害時の重要業務なども明記して適宜の更新をし、初動訓練の勉強会なども実施している。また、園として災害時の保護者との通信手段も準備して、BCPを活用した引き取り訓練なども実施されている。事業継続計画は大規模災害時の行動が円滑にできるよう示されるものであるため、いざというときに備えて適宜の再確認を行い、今後も引き続き安全の確保に万全を期していただきたい。
3	タイトル	継続した取り組みにより、安定した人員体制の維持に努めていただきたい
	内容	職員の定着率も高く安定しており、独自の子育て支援制度や「TOKYO働きやすい福祉の職場宣言」への参加など、働きやすい職場づくりを推進している。ただし、社会的、地域的な採用難の状況であることは変わりがなく、安定した人員体制の維持は課題となっている。採用については法人とも連携し、園としても独自に努力し、さらなる対策の検討もされているため、今後も人材育成、職場環境づくりの推進により人材が定着する組織づくりの取り組みを継続し、安定した人員体制の維持に努めていただきたい。